opusdei.org

私たちは貧しい人々 の中にキリストを発 見するように呼ばれ ている

2021年11月14日の「貧しい 人のための世界祈願日」教皇 メッセージ:「貧しい人々は いつもあなたがたと一緒にい る」(マルコ14・7)

2021/11/12

(邦訳カトリック中央協議会: <u>リン</u>ク)

1. 「貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいる」(マルコ14・7)。イエスは、過越祭の数日前、ベタニアの、「重い皮膚病の人」を呼ばれていたシモンという人の家まれていたシモンとにいわれるところにいわれまれる音記者が語るところによれる一人の女性がとても高価なくの入った石膏の壺をもってきて、のの入った石膏が生じました。このの受け止め方が生じました。

一つ目は、弟子たちを含め、そこにいた何人かの憤慨です。労働者一人の1年分の賃金に匹敵する300デナスをといることの高価な香油だとの高価な香油だと、貧しと書えば、それを売って、貧したのです。この立場をとったのは、この立場をとったのは、この立場をとったのは、この立場をとったのは、このがした。「なぜ、この香油を300デナなかったのか」。そして福音記者は

こう指摘しています。「彼がこう いったのは、貧しい人々のことを心 にかけていたからではない。彼は盗 人であって、金入れを預かっていな がら、その中身をごまかしていたか らである | (12・5-6)。裏切る人 間の口からそうした辛辣な批判が出 るのは偶然ではありません。貧しい 人々のことを尊重しない人は、イエ スの教えを裏切っており、彼の弟子 であるはずがないということの証拠 です。この点に関し、わたしたちは オリゲネスの強烈なことばを思い起 こしたいと思います。「ユダは貧し い人のことを案じているようであっ た。……もし現在も、教会の財布を 預かり、ユダと同じく貧しい人への 思いを口にしつつも、皆が入れたも のに手を付ける人がいるなら、その 人はユダと同じ役回りを演じること になるのだ | (『マタイ福音書注 解』XI.9)。

二つ目の受け取り方はイエス自身の もので、女性がした行為の深い意味 を理解させてくれます。イエスはこ ういっておられます。「するままに させておきなさい。なぜ、この人を 困らせるのか。わたしによいことを してくれたのだ」(マルコ14・ 6)。ご自分の死が近いことをイエ スは知っておられ、彼女の行為に、 墓に入る前のいのちの尽きたご自分 のからだに油が注がれることの前表 を見ているのです。そのような見方 は、ともに食卓を囲んでいた人たち には想像の及ばないことです。イエ スは、いちばん貧しい者はご自分で あること、貧しい人々の中でもっと も貧しい者であると、なぜならすべ ての貧しい人はご自分であるからだ と、彼らにいわれます。神の御子が この女性の行為を受け入れたのは、 貧しい人、孤独な人、疎外されてい る人、差別された人の名においてな のです。その女性は、女性ならでは の感性で、彼女だけが主の心境を理

解していることを教えてくれます。 この名もない女性は、おそらく女性 であるという理由から、何百年も声 を奪われ暴力に苦しむことになる女 性の世界全体を象徴するよう定めら れています。さらに、キリストの生 涯の頂点となる瞬間、すなわち十字 架と死と埋葬、そして復活したかた としてのその姿に立ち会う女性たち という重要な存在の先達となったの です。女性たちは、実にしばしば差 別の対象となり、責任ある立場から 遠ざけられていますが、福音書の中 では打って変わって、啓示の歴史の 主人公です。そして、その女性を偉 大な福音宣教と結びつけられたイエ スの締めくくりのことばには説得力 があります。「はっきりいってお く。世界中どこでも、福音がのべ伝 えられるところでは、この人のした ことも記念として語り伝えられるだ ろう| (マルコ14・9)。

2. イエスとその女性の間にあるこうした強い「共感」、そして彼女が油を注いだことについてのイエスの受け止め方は、ユダや他の人々がスキャンダルだと見る受け止めとは対照的に、イエス、貧しい人、福音の告知、これらの間の切ることのあるない結びつきについての、実りある考察につながるものです。

イエスが明かしてくださる神のみ顔 は、実は、貧しい人に向けておられ る御父のみ顔、貧しい人に寄り添う 御父のみ顔なのです。イエスのすべ てのわざが、貧困は運命によるもの ではなく、わたしたちの中にイエス がおられることの具体的なしるしだ ということを示しています。わたし たちが望む時に望む場所でイエスを 見いだすのではなく、貧しい人の生 活の中に、彼らの苦しみや困窮の中 に、彼らが強いられるしばしば非人 間的な境遇の中にイエスを認めるの です。何度も申し上げていますが、

貧しい人こそ真の福音宣教者なのです。彼らは最初に、福音を受け、主とそのみ国の幸いを分かち合うよう招かれている人々だからです(マタイ5・3参照)。

いかなる境遇でも、またいかなる場所にいても、貧しい人は、わたしたちを福音化してくれます。なぜなら彼らによってわたしたちは、御父の真の素顔に、つねに新しいかたちで気づけるようになるからです。「貧しい人は多くのことを教えてくれるのです。彼らは「信仰の感覚

(sensus fidei)」にあずかるのに加え、自分自身の苦しみをもってキリストの苦しみを知っていますとは皆、彼らから福音化で音とはなければなりません。新しいて音をいたらずかもできる。彼らの生活がもったを見いです。彼らの代弁者となり、さらに彼だし、その代弁者となり、さらにながある。

らの友となって、耳を傾け理解し、 彼らを通して神が伝えようと望んで おられる不思議な知恵を受け取るよ う招かれているのです。わたしたち のかかわりは、促進と支援の行動や 計画にとどまるものではありませ ん。聖霊が引き起こしているのは、 活動への過剰な傾倒ではなく、まず 何よりも『ある意味で自分と一体と みなし』ている他者に目を向けるこ とです。愛のまなざしは、人を本当 の意味で心配することへの最初の一 歩です。そこからその人の幸福を実 際に求めるようになるのです」(教 皇フランシスコ使徒的勧告『福音の 喜び』198-199)。

3. イエスは貧しい人のそばにおられるだけでなく、運命そのものを彼らとともになさいます。このことは、いつの時代であれ、その弟子たちにとって重要な教えです。「貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいる」というイエスのことばも、そ

れを示しています。わたしたちの間 に彼らはつねに存在していますが、 そのことを無関心につながる慣れに してはならず、むしろ、人任せでは いけない人生を分かち合うこと、そ の呼びかけとすべきです。貧しい人 は共同体にとって「部外者」ではな く、ともに苦しみを担うべき兄弟姉 妹であり、彼らの苦労と疎外感を和 らげることで失われた彼らの尊厳は 回復され、欠かすことのできない社 会包摂が確保されるのです。しか し、慈善行為というものは支援者と 受益者を前提としていますが、分か ち合うことからは兄弟愛が生まれる ことは、ご存じのとおりです。施し は散発的なもの、他方、分かち合い は永続的なものです。前者には、施 す側を気持ちよくさせ、受け取る側 の自尊心を傷つける危険があります が、後者は、連帯感を強め、正義を 実現するために必要な前提です。つ まり信者たちは、イエスにじかに会 いたい、自らの手で触れたいと思っ

たときに、どこへ行けばいいかを 知っているのです。貧しい人々はキ リストの秘跡であり、彼らはイエス の姿を表し、彼を指し示しているか らです。

貧しい人と分かち合うことを、人生 の事業とした聖人たちの模範がいく つもあります。なかでもわたしは、 救ハンセン病の使徒、ダミアン・ デ・ブーステル神父に思いを馳せま す。ダミアン神父は、ハンセン病患 者と生き、彼らと死を迎えようと、 患者しか入れないゲットーとなって いたモロカイ島に渡るという召し出 しに、寛大な心をもってこたえまし た。病に冒されて追いやられ、どん 底に突き落とされたそのあわれな 人々の暮らしを、生活という名にふ さわしいものにしようと、額に汗 し、何でもしました。危険について 考えもせず自ら進んで医師となり看 護師となり、当時「死の集落」と呼 ばれた島に愛の光をもたらしたので

す。ハンセン病はダミアン神父にも 襲いかりますが、これは彼べこれは彼べてのがいたしる。 がながたしるナウイルる今には、新型コーナけられる。 かしは、カーナリンでではなったののででいた。 がでいたしかででいたのののででいた。 でいたしかででいたののででいた。 でいたしかのででいた。 がしいなくともいったのはないではないないです。 が働いているのにはないです。 です。

分かたれた人々だとみなされていま す。この点で、イエスに従うこと は、考え方を変更させる、つまり、 共有と参与という挑戦を受け入れる ことなのです。イエスの弟子になる ということは、地上には宝を積まな いという選択をすることです。その 宝は、実際にはもろくはかない、安 心の幻想を与えるだけのものです。 それよりも、永遠なるもの、何にも だれにも壊されることのないものを 見極めるために、真の喜びと幸いに 至るのを妨げるあらゆる束縛から自 らを解放する意欲が必要なのです (マタイ6・19-20参照)。

ここでもまた、イエスの教えは大勢 に逆行しています。というのも、そ の教えは信仰の目によってのみ見る ことができ、絶対的確信をもって経 験できることを約束しているからで す。「わたしの名のために、家と発 弟、姉妹、父、母、子ども、畑を捨 てた者は皆、その百倍もの報いを受

け、永遠のいのちを受け継ぐ」(マ タイ19・29)。はかない富、この世 の権力、虚栄心において貧しい者と なることを選ばないかぎり、愛のた めにそのいのちを差し出すことは決 してできないでしょう。善意にあふ れてはいても世界を変えるほどの力 はない、半端な人生を生きることに なるでしょう。だからこそ、キリス トの恵みに全面的に自らを開くこと が重要です。その恵みが、わたした ちをキリストの無限の愛のあかし人 にしてくれるのであり、世界におけ るわたしたちの存在に信頼を取り戻 せるのです。

5. キリストの福音は、貧しい人について特別に関心をもつようわたしたちを突き動かし、あまたの、あまりにさまざまな倫理的・社会的逸脱ーーここからは必ず新たな形態の貧困が生まれますーーについて理解するよう求めています。貧しい人がその状況にあるのは彼ら自身の責任だ

という考えだけでなく、彼らは、少 数の特権階級の利益を第一とする経 済システムにとって耐え難いお荷物 になるとの考えも広まりつつあるよ うです。倫理原則を無視したり取捨 選択したりする市場は、今すでに不 安定な境遇で暮らす人々を打ちのめ すほどの、悲惨な条件を生み出しま す。そのようにわたしたちは、人間 性や社会的責任を欠き、良心のとが めを失った経済・金融関係者が生み 出す貧困と排除の罠が、つねに新た に創出されている場に立ち会ってい るのです。

そのうえ昨年は、パンデミックという別の惨劇が加わり、貧しい人がのらに増えました。それは無数の下を叩き続け、苦痛や死をもあるのです。貧困層は激増しており、ででながらそれは今後数か月は続くでのきがいるで深刻な影響を受け、もっとも弱

い立場の人は生活必需品も得られな くなっています。炊き出しに並ぶ長 蛇の列は、こうした事態の悪化を如 実に表しています。党利党略を事と せず、世界レベルでウイルスと闘う 最適な対策を見いだすことに目を向 けなければなりません。とくに、失 業の憂き目を見た人々に、具体的に 対応することが急務です。失業に よって非常に多くの、世帯を支える 人たち、女性、若者が大きな打撃を 受けています。社会的連帯と、あり がたいことに多くの人が示す寛大さ は、長期的展望をもった、人間らし い地位向上を目指す数々の事業とと もに、この非常事態にあって重要な 貢献をしており、今後もそれは続く でしょう。

6. とにかく、少しも答えの見えない問題が残されたままなのです。ただ無視される、さもなくば嫌な思いをする対応ばかり受ける大勢の貧しい人々に、どうしたら具体的な解決

策を提供できるのか――。社会的格 差を乗り越え、あまりにしばしば踏 みにじられる人間の尊厳を回復する には、どのような正義の道を歩むべ きなのか――。個人主義的な生活様 式は貧困を生み出すことに加担し、 しかも貧困の状況の責任をすべて貧 しい人に負わせてばかりです。しか し、貧困は運命の産物ではありませ ん。エゴイズムの結果です。した がって決定的なのは、すべての人の 能力が生かされる開発プロセスを生 み出すことです。能力を補い合うこ とと、多様な役割によって、参画と いう共通資源を生み出すためです。 「金持ち」がもつ貧しさの多くは、 「貧しい人」の豊かさによっていや されるものです。出会い、知り合い さえすればいいのです。貧しいから といって、相互のかかわりにおい て、自分にある何かを差し出すこと ができない人はいません。貧しい人 が受けるだけの人であるはずはあり ません。こたえるすべを彼らは熟知

7. こうした理由から、貧困に対して、これまでとは異なるアプローチが必要とされています。それは、府や国際機関が、今後数十年にわたって世界全体に決定的な影響をある、長期的展望を備えた社会である、長期的展望を備えた社会であるかのように疎外されてしま

うと、民主主義の理念そのものが危 うくなり、あらゆる社会政策が破綻 してしまいます。わたしたちは、貧 しい人を前にして彼らに采配を振る う資格がほとんどないということ を、心から謙虚に認めなければなり ません。わたしたちは彼らについて 理屈で論じています。統計にとど まったり、ドキュメンタリーにして 感動させようと考えたりしていま す。ですが貧困は、創造的な計画を 生み出すはずです。各人固有の能力 をもって、自己実現のための実際の 自由度を高めるようにする計画で す。お金があれば自由が認められ、 その度合いが増すという考え方は、 遠ざけておくべき幻想です。貧しい 人に実際に仕えることで、行動へと 駆り立てられ、人類に属するこの一 団を元気づけ向上させるふさわしい 方法を見つけられるようになりま す。ほとんどつねに、名で呼ばれ ず、声も奪われているものの、彼ら

には、助けを求める救い主のみ顔が 刻まれているのです。

8. 「貧しい人々はいつもあなたが たと一緒にいる」 (マルコ14・ 7)。これは、善を行う機会を見落 とさないようにという呼びかけで す。背景に、聖書にある古くからの 命令が透けて見えます。「どこかの 町に貧しい同胞が一人でもいるなら ば、その貧しい同胞に対して心をか たくなにせず、手を閉ざすことな く、彼に手を大きく開いて、必要と するものを十分に貸し与えなさ い。……彼に必ず与えなさい。また 与えるとき、心に未練があってはな らない。このことのために、あなた の神、主はあなたの手の働きすべて を祝福してくださる。この国から貧 しい者がいなくなることはないであ ろう| (申命記15・7-8、10-11)。同様に使徒パウロも、エルサ レムの最初の共同体の貧しい人々を 助けるために、自身の共同体のキリ

スト者に勧めています。「不承不承ではなく、強制されてでもなく」そうしなさい、「喜んで与える人を神は愛してくださるからです」(二コリント9・7)。いくばくかの施してリント9・7)。いくばくかの施してもりしろめたさを和らげるのではなく、貧しい人々に対して無関心や不公平な態度を取る文化に対抗することが大切です。

これについては、聖ヨハネ・クリゾ ストモのことばも思い起こすとよい でしょう。「寛大な者は、その(貧 しい人の)過去の行動について問い ただしてはならず、貧困の境遇を改 善し、必要を満たすことだけに尽く すべきです。貧しい人には、たった 一つの抗弁しかありません。その貧 しさ、彼らが置かれている窮状だけ です。その人にそれ以上、求めては なりません。それどころか、その人 が世界一の悪党であろうが、最低限 必要な食べ物にも事欠くのであれ ば、飢えから救い出さなければなり

9. 生活の質(QOL)の変化に合わせてつねに変わる貧しい人のニーズをとらえるのに、もっと敏感であることが重要です。確かに今日、音楽がではがではなりがででは、貧困問題に取り組む意かで低下しています。相対的には関れてしますではいますがである状態に慣れてしまい、犠牲するである大態に関れてしまれたり窮乏を受け入れたりなったりますます。人は、簡単に手に入れた実を奪われ

ないよう、あらゆる備えをします。 ですから、恨んだり、あえぐほど 怒ったり、恐怖や不安、場合によっ ては暴力にすらつながるようなク レームを出したりするのです。こう したことを、未来を築くうえでの根 拠にしてはなりません。ただしこれ もまた、目を背けてはならない貧困 の一種です。わたしたちは、現代世 界において宣教者となるために、新 たな様式を描く時のしるしを読み取 るべく、開かれていなければなりま せん。貧しい人の必要にこたえる緊 急支援によって、先を見据えること が妨げられてはなりません。遠くを 見る視点は、今日の人類が経験して いる新しい貧困にこたえる、キリス ト教の愛と慈善の新たなしるしの実 践に必要なのです。

貧しい人のための世界祈願日は、今年で5回目を迎えますが、地方教会にしっかりと根づき、どこにあっても最初の要求として、貧しい人と交

わるという福音化の運動へと開かれ ていくよう願っています。彼らから 戸を叩いてもらうのを待っているわ けにはいきません。わたしたちか ら、彼らの家へ、病院、介護施設、 路上へと、目立たぬようにしている 街の隅へ、避難所、受け入れ施設な どへと出向き、彼らのもとを訪れる ことが急ぎ求められています。彼ら が何を感じ、何を味わい、何を願い として心に抱くのかを理解すること が重要です。プリモ・マッツオーリ 司祭(1890-1959年)が切実に訴え たことばを、わたしたちも自分のも のとしましょう。「お願いですか ら、貧しい人はどこにいるのか、そ れはだれなのか、何人いるのかと、 わたしに尋ねないでください。そう した質問が、気休めや、良心と心に 突きつけられることをごまかす口実 になってしまうと心配するからで す。……わたしは貧しい人を数えた ことはありません。貧しい人は勘定 されるべき存在ではないからです。

貧しい人は抱きしめられるべきであり、数えてよいものではないのではないのではないのではが刊行していた雑誌Adesso 7号 [1949年4月15日])。貧しい人は、力をしたちの間にいます。したちも貧しいしたもうでしたもうでいることでできるからできるかできるからできるからでは、たちの人生のできるかできるからでは、たちの人生のできるかできるからでは、たちの人生のできるからできるからでは、たちの人生のできるからできるからでは、たちの人生のできるからできるからでは、たちの人生のできるからできるからでは、たちのでは、

ローマ、サン・ジョヴァンニ・イ ン・ラテラノ大聖堂にて

2021年6月13日、パドバの聖アント ニオの記念日

フランシスコ

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ Mazushii-Hitobito-no-Nakani-kirisutowo/ (2025/11/22)